



## 女川町海岸広場 プライベートキャビン 棧橋キャビン / Onagawa Penta

### ■背景

宮城県女川町でまちづくりに取り組む女川みらい創造株式会社が、女川町海岸広場（宮城県牡鹿郡女川町海岸通）に「海をより身近に楽しむための居心地のよい庭付きキャビン（小屋）」を製作し、運営するもの。全国を対象にし、デザインコンペをおこない、集まった139点の応募案のなかから選ばれた優秀賞2案をCLT等を活用し製作した。キャビンは利用者に時間を区切って貸し出され、海に面した海岸広場で利用者が豊かな時間を過ごすためのプライベート空間を提供する。完成したキャビンは町所有の公園のなかに民設民営された公民連携の拠点となるとともに、震災前の女川で最も賑わいがあった場所で、女川滞在の新たな拠点として活用される。

### ■計画概要

CLTおよびDLTを活用したプライベート空間を確保する小規模なキャビンの建設を計画。工場で加工したCLT等のパネル材を現場で組み立てることで、施工精度を上げ、内装材と一体となった仕上げや断熱材の省略化により、現場施工期間の短縮化をはかることができた。町所有の公園敷地に民設民営によって計画される木質化したキャビンは、さまざまな使われ方を想定し、今後も段階的に新たなキャビンや建築を増築することも視野に入れて整備した。



### 女川町海岸広場 プライベートキャビン

敷地：宮城県牡鹿郡女川町海岸通り 6-1

用途：休憩所

建築面積：棧橋キャビン / 10.68 m<sup>2</sup>

Onagawa Penta / 8.36 m<sup>2</sup>

延床面積：棧橋キャビン / 9.17 m<sup>2</sup>

Onagawa Penta / 8.36 m<sup>2</sup>

設計監修：

棧橋キャビン / 狩野翔太 + 小谷栄人 + 中村哲平

Onagawa Penta / 安江怜史建築設計事務所

+ コンフェット株式会社

実施設計：KATSU STUDIO、株式会社 irodori

構造設計：GRAPH STUDIO

施工：

棧橋キャビン / 高橋工務店株式会社

Onagawa Penta / 有限会社 報武工務店

CLT加工：株式会社 山大

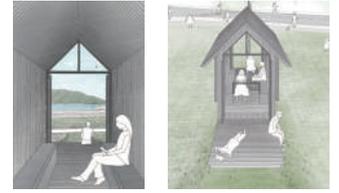
CLT製造：西北プライウッド株式会社

DLT製造指導：株式会社 長谷川萬治商店

DLT製造：登米町森林組合

## 棧橋キャビン

棧橋やレンガ道のように奥行きと方向性のある平面、筒状の一体空間が女川湾と港の風景を切り取り、自然をより近い存在に変換。山や周辺建物のように勾配のある断面形状とする事で周辺環境との調和を図り、天井高を確保した。中央には外部から連続する棧橋道、両端にはベンチを設えた。



### 【CLT,DLT 活用】

棧橋キャビンは DLT の壁、CLT の床で構成され、在来木造の一般金物の使用で構造を成立させ。DLT および CLT そのものが耐震要素として機能するため、構造面材を不要にし、木質パネルならではの仕上げと断熱層が一体となったシンプルな構造体としてキャビンを建設した。

## Onagawa Penta

木のパネルの厚みで断熱性を確保し、窓をあければ風が通る、簡易的な建物ではあるが、内部の居住性が高いキャビン。椅子に座って外を眺めて読書をしたたり、床に寝そべて少し籠った感じで寛いだり、広場とは少し違った過ごし方ができるプライベートで居心地の良い空間を計画した。



### 【CLT 活用】

CLT で屋根、壁柱、床を構成することにより、在来木造では難しい自由な形態を可能にし、五角形の断面で構成されるキャビンを実現した。外装に関しても木材で構成されており、CLT と県産木材のみでキャビンの建設を実現し、木材に使用による炭素貯蔵量の増加はカーボンニュートラルに寄与する。またあらかじめ工場で加工された CLT を組み上げることで、現場の天候の影響を受けることなく、高い施工精度と短工期での施工を図る。CLT 使用により現場での内装工事、断熱工事を省略し、経済的かつ合理的なキャビンを 1 ヶ月の施工期間で建設した。



## ■ご案内

### 『女川町海岸広場 プライベートキャビン』完成見学会

令和6年4月25日(木)13:30~15:00(受付13:00~)

【集合場所】女川町まちなか交流館 1F ホール

〒986-2265 宮城県牡鹿郡女川町女川 2 丁目 65 番地 2

- ・周辺に町営無料駐車場がございます。
- ・現地集合現地解散となります。